



校友さんしゃ

題字：元総長・細野 武男氏

2015
April
2015年
4月1日発行

Vol.
41

新卒校友歓迎特集

校友会にぜひ参加してみよう！

さんしゃEXPRESS

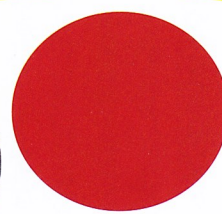
50周年事業企画検討 ワークショップ



2015年2月23日(月)開催
50周年記念事業企画検討ワークショップの様相

産業社会

50



Ritsumeikan

産社校友会 みみより情報！

2015年12月4日(金)5日(土)6日(日)3日間限定！

創設50周年記念事業 メイン企画連動

『小集団 クラス 同窓会補助制度 特別増額』のご案内

現在過去未来のさんしゃ生の心を照らす番組

さんしゃ in my heart

ご卒業おめでとう！
そして校友会にようこそ

立命館大学産業社会学部校友会

会長 吉谷 寛



この春、産業社会学部および社会学研究科を卒業・修了するみなさん、ご卒業おめでとうございます。そして、みなさんを「校友」として、われわれ産業社会学部校友会のお仲間にお迎えできることを、本当にうれしく思います。私は、2009年にこの校友会の会長に就任して以降、以下の2つのことを活動の基軸にしています。1つめは「20代、30代など若い方々や、女性の方々にたくさん参加していただけるようにすること」、そして2つめは「校友それぞれの過去の振り返りや懐かしみだけでなく、後輩である産社現役学生・院生や先生方の取り組みの力になれる活動を展開すること」です。つまり、みなさんには産社校友会活動の「主役を担っていただける存在として、その活躍に大きな期待を寄せているわけです。

校友会活動に参加することの意義については、社会一般でもいろいろと言われていますが、私は、仕事関係・友人関係・家族関係とは異なった軸の人間関係が形成され、仕事や学び、ひいては人生そのものに刺激や彩りをもたらされることに、何物にも代え難い大きなメリットがあると思っています。産社を卒業・修了されたばかりの皆様にとっては、大学卒業後も自身の成長を促すことができる「学びの場」になるはずです。

とりわけ今年は産社が創設されて50周年という記念すべき年であり、12月に開催される記念行事メイン企画はじめ、例年にも増して産社校友会の活動が積極的に展開されることになっています。みなさんこれから社会の各場面で活躍され、ご多忙を極められることになると思いますが、産社校友会の企画にぜひ気軽に参加してみてください。きっと、素敵なOB・OGがみなさんを温かく迎えてくれることでしょう。私もみなさんと出合いお話ができることを心より楽しみにしています。

(ふるたにゆたか イオンDNA伝承大学学長、イオンディライト株式会社取締役相談役、産業社会学部1969年卒業(第一期生))

この「校友さんしゃ」は、卒業式・修了式にて新卒校友にも配布します。

新卒校友歓迎特集

校友会にぜひ参加してみよう！



一般的に知られているようで知られていない校友会。特に新卒校友の方々にとっては、これまで馴染みのない「世界」であると思われまふ。今回は、校友会とはいったいどういうものなのか、ご紹介してみたいと思います。

なお、新卒校友歓迎特集としていますが、内容的には幅広い世代の校友の方、特にこれまで校友会活動にご参加になられたことがない方に、是非とも読んでいただければと思います。

そもそも、

校友会(こうゆうかい)、
校友(こうゆう)とは？

A

立命館大学では、学部卒業生、研究科(大学院)修了生および教職員により組織される同窓会組織を校友会(こうゆうかい)と呼んでいます。校友(こうゆう)とは、卒業生・修了生個人のことを指します。

同窓会というと、一般的には同じ学年の集まり、あるいは比較的高い年齢層の方々による集まりというようなイメージがあるかもしれませんが、校友会は、卒業した後の若手から卒業後40〜50年を経たベテランまでが、同じ大学で学んだことを縁にして、一堂に会する集まりです。その際、参加する校友の立場は、年功序列ではなく、フラットであることは言うまでもありません。



Q

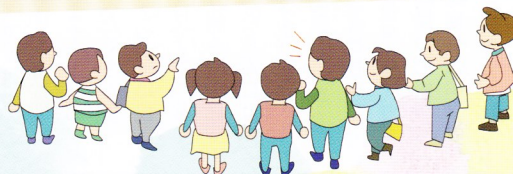
校友会の種類には
どんなものがあるのですか？

A

立命館大学の場合、立命館大学全体(全学)の卒業生、修了生で組織される立命館大学校友会(以下、全学校校友会とする)が最大規模の校友会であり、ついで、私たち産業社会学部校友会(以下、産社校友会とする)などをはじめとする学部・学科・研究科単位の校友会があります。(一部の学部・学科・研究会では同窓会と称している団体もあります)。

また全国各都道府県には必ず都道府県単位の校友会があり、地域によっては、市町村などの単位の校友会もあるほか、アジア圏・欧米圏を中心とする海外主要都市で校友会が開かれている例もあります。

その他、基礎演習(プロゼミ)、卒業演習(ゼミ)単位の校友会、体育会やサークル等のOBOG会、その他任意の団体など、立命館大学全体では数百を超える校友会組織があるほか、立命館学園の各附属校、立命館アジア太平洋大学などにも校友会組織があり、各世代、各地域等でそれぞれ活発な活動が行われています。





A 全学校友会や地域の校友会など、多くの校友会で、毎年、年次総会・懇親会等の定例行事が行われており、その開催告知は、会報誌やそれぞれのWebページ等に情報が掲載されるほか、会員向けに案内通知が郵送されている校友会もあります。

産社校友会においては、本誌「校友さん」のほか、産社校友会ホームページ、学部創設50周年記念事業特設サイト、同facebook等において行事案内がなされています。Googleやヤフーなど、ワード検索を行うことでそれぞれの媒体に簡単にアクセスすることができ、是非情報を覗いてみてください。

Q 校友会へ参加するためにはどうしたらよいのでしょうか？



(産業社会学部校友会 事務局長 野村 慶人)

産社校友会は楽しいっぴいです!!

本誌1ページの会長挨拶でも触れられていますが産社校友会は「若手・女性」の方々に参加していただきやすい校友会作りを目指しています、特に女性校友の方々向けには、2013年度、2014年度と「女性のためのアフタヌーンパーティー」を企画し、いずれも100名を超える方々にご参加いただき、大盛況となりました。また、本年2月には、初の地方企画となる「さんしゃ九州校友のつどい in 九州・熊本」を開催するなど、斬新性のある企画の展開にも積極的に取り組んでいます。

これらの企画は、友人やお仲間をお誘いいただきグループでご参加頂いても、もちろん存分に楽しんでいただけますが、お一人で参加されたとしても先輩や後輩との出会いや思わぬつながりの発見などが生まれるような様々な工夫を凝らしており、おそらく事前の期待をはるかに上回る満足感を持っていただけのもとの確信しております。

今年、2015年は産社創設50周年にあたるため、企画の規模や開催地域等についても、これまでとは段違いのスケールで展開していく予定です。是非今後の産社校友会にご期待いただくとともに、ぜひとも実際に企画にご参加いただき、産社の楽しさを分かちあっていただければと思います。



50周年事業企画検討ワークショップが 開催されました。

いよいよ迎えた2015年、産社創設50周年。産業社会学部および産業社会学部校友会では、この間緊密な連携のもと、記念事業の検討・準備を進めており、今般企画検討ワークショップを開催いたしました。今回の「校友さんしゃ」では、学部記念事業委員会記念式典・事前企画・広報運営小委員会委員長を務めておられ、今回のワークショップにおいてもファシリテーターを務めておられた乾亨先生に、紙面インタビューの形式でお話を伺いました。

産社50周年記念事業

取り組みの基本的なスタンス

産社50周年記念事業は、単に、今の産業社会学部が行う「記念」事業ではありません。これまで産社で学んできた卒業生（校友のみなさん）や産社を支えてきた教職員、現在産社に学ぶ学生や院生、そして今の学部教員や職員が、ともに創り、ともに祝い、これまでの産社を振り返り、今の産社について考え、これからの産社を夢見る場にしたいと考えています。

そのため、なによりも、より多くの関係者が集い、楽しみ、交流し、そしてちょっぴり勉強もし（笑）、産社の魅力を発信する「おまつり」にしたいと考えていますし、企画・運営についても、校友のみなさん、現役学生、教職員が協力し、アイデアを出し合い、手作り感覚で作りに上げていきたいと考えています。

産社50周年記念事業の

企画・運営の体制

すでにこの「校友さんしゃ」でも紹介されていますが、事業自体は産社校友会の強力な協力・支援のもと、学部設置された学部50周年記念事業委員会（委員長 佐藤春吉教授、以下、学部実行委員会）が主体を担っていきます。この委員会のもとには概念図（左記図参照）に示すような小委員会が設置されていますが、そのうち、「記念式典・事前企画・広報運営小委員会（以下、企画運営委員会）」の委員長を私が務めることになりました。産社校友会からは、資金・企画運営の両面においてこの事業への全面協力を約束して頂いておりませんが、事業企画の企画責任は学部実行委員会が担います。

産社校友会にも、事業の企画・運営を積極的に推進していくため、「企画・実務運営特別委員会（以下、校友会特

別委員会）」が作られましたね。この校友会特別委員会も、全体の構図のなかでは、学部実行委員会―企画運営委員会の系統に位置づけられます。

私は、これらの体制のもと、50周年記念事業に「オール産社」で実質的に取り組んでいくため、校友・学生・教職員それぞれから有志を募り、実働部隊を編成したいと考えました。学生については2月3日に第1回のミーティングを開きましたが、校友についても2月23日に私のゼミのOB・OGにも多数参加してもらってワークショップを開きました。

まだまだ、これからたくさんアイデアを出して、いっぱい議論をして、プランを練り上げていく必要がありますが、実働部隊に関わってくれる校友・学生・教職員のそれぞれ有志が一体感をもってこの事業に取り組んでいけたらと思っています。

あそ

産社に学び、産社に遊ぶ

まな

とにかく、この機会に

みんなでオモロイことしよ、遊ばー！ がテーマです（笑）

*学ぶ、遊ぶのルビはわやです。



（乾先生写真左）

（本紙面インタビュー記事は、2月23日のワークショップ開催にあたって乾先生が提示されたレジュメの内容をもとに校友会事務局が再構成したものです）

産社 50 周年記念事業企画・運営体制 概念図



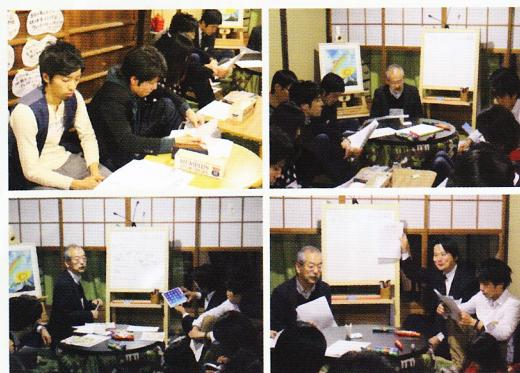
年

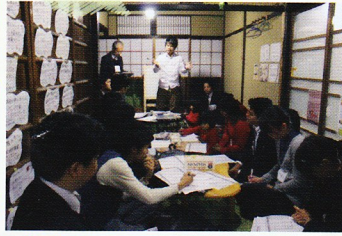
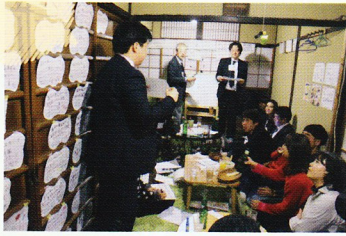
上は年下に、年下は年上にそれぞれ敬意を払おう、「他

ワークショップの開始にあたり乾先生より、50周年記念事業の構想概要、具体的なプランの煮詰め方についてフリーフィングが行われたあと、まずは「GYPSY HOUSE」特製のカレーで腹ごしらえをして（笑）、その後格

本誌4ページの乾先生へのインタビュー記事のなかにも触れられていますが、2015年2月23日（月）19時より、京都市内・二条のおしゃべり café「GYPSY HOUSE」において、50周年事業企画検討ワークショップが開かれました。当日は乾先生および産社校友会事務局の声かけにより、1997年から2012年までの中堅・若手校友、現役学生など総勢21名が集合し、およそ2時間半にわたって意見交換を行いました。

人の意見に対する批判は基本的になし。どうしても場合は、代替案を出そう、「他人の意見にいいねーと思ったら、さらに乗っかり、ふくらませOK」、「意見やアイデアを提示する際は、用意されたスレッドブックにキーワードを書いてから発言しよう」など、乾先生らから次々と条件提示がなされるなか、参加者は次々と手を挙げて意見を発表しました。（次ページへ）





(前ページから)

今

回のワークショップ会場となった「GYPSY HOUSE」は、昔ながらの京町屋がリノベーションされた空間であり、参加者はみな畳の間に「所狭し」と居並ぶかたちになりましたが、その密集感がかえって効果的で、当日が初対面同士の参加者が多数いたにも関わらず、個性的・斬新的な意見が飛び出すとすかさずツッコミが入るなど、とても寛いだ雰囲気のおかげ、熱気溢れる議論が展開されました。

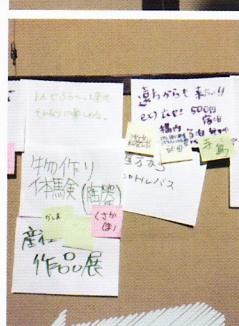
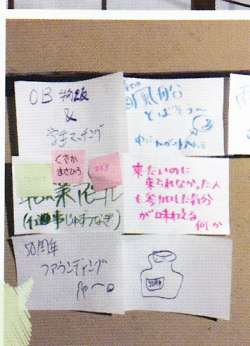
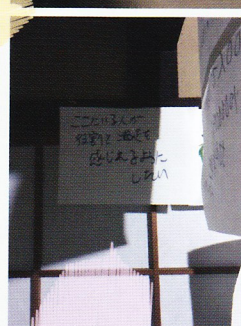
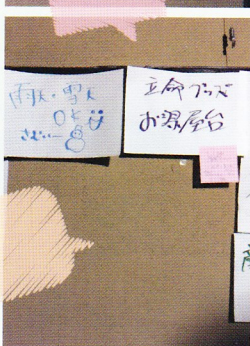
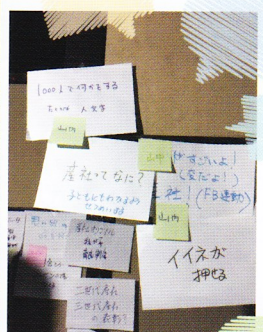
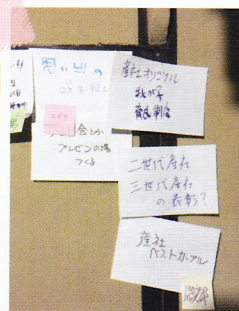
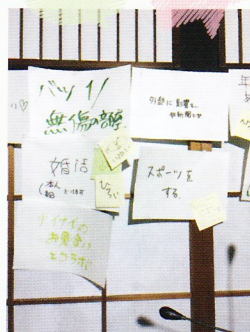
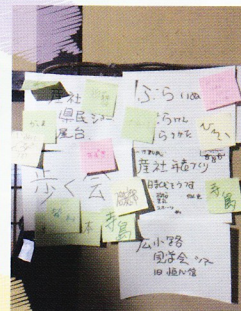
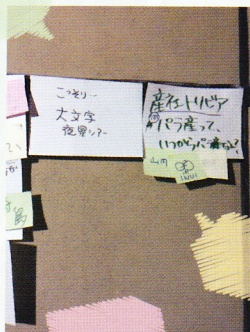
参

加者からスケッチブックに書いて出されたアイデアや意見(キーワード)は、全て梁などを使って張り出され、ミーティングの最後に参加者それぞれが共感する意見について付箋をつけるかたちで優先順位付けを行い、次回にはその内容をさらに濃くしていく方向性を確認して、今回のワークショップは盛会裏のうちに閉じとなりました。次は2015年4月中旬を目処に第2回を開催する予定です。

今

回のワークショップの模様や、アイデアや意見(キーワード)については、本誌面上でも写真で見ることができるご紹介させていただくことにいたしました。本誌読者の皆様においても「ぜひアイデアや意見を挙げてみたい」等ご希望がございました場合には、産社校友会事務局までご連絡ください。

*本誌の末尾に産社校友会事務局の連絡先等を明示しています。



産社校友会 みみより情報!

『小集団 クラス 同窓会補助制度』のご案内

産業社会学部校友会には、『小集団 クラス 同窓会補助制度』があります。小集団クラスとは、産社在学時の「基礎演習」「プロジェクトスタディ」「演習」「専門演習」「卒業研究」などのグループ・集団を指し、ここに属された校友の方々が同窓会を開催される場合に、産社校友会より右記金額の補助を行うものです。産社校友会は、毎年 10 数件の小集団 クラスの同窓会に補助を行っています。なお、参加者の卒業年次が複数年度に跨る場合も対象となります。

◆『小集団 クラス 同窓会補助制度』による補助内容

参加者数	補助内容
50名以内の場合	1 人 2,000 円を上限とし、かつ 1 会 5 万円を上限とする実費補助
51名～100名の場合	7 万円の補助
101名以上の場合	10 万円の補助

(ご注意) 同じ小集団クラスへの補助は年 1 回限りとします。小集団クラスでないご友人同士の集まりなどは対象になりません。また、同補助については、産社校友会において年間予算額(2014 年度は 100 万円)を定めており、その金額に達した時点で受付終了となります。詳しくは産社校友会 HP <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/ss/reunion/index.htm> から「同窓会情報」の「補助申請方法」にてご確認ください。

2015年 12月 4日(金)5日(土)6日(日)3日間限定!

創設 50 周年記念事業 メイン企画連動

『小集団 クラス 同窓会補助制度 特別増額』のご案内 (再掲)

産業社会学部および産業社会学部校友会では、2015 年 12 月 5 日(土)および 6 日(日)の 2 日間にわたって、本学衣笠キャンパスを会場として、式典、記念イベント、レセプション等メイン企画を実施しますが、これらに多数の産社校友の方々にご参加いただくことを期して、**12 月 4 日(金)、5 日(土)、6 日(日)の 3 日間に小集団クラス等で同窓会を開催される際の補助について、特別増額を実施いたします。**

同窓会のご参加人数に関わらず、1 人あたり 3,000 円を補助いたします。

また、ご家族同伴の場合についても、同額を補助いたします。

例えば 同窓会に **20 人**(校友ご本人 **15 人**、ご家族 **5 人**の場合)

3,000 円 × 20 人 = 60,000 円 を補助します。

同窓会参加者数が 5 人でも 50 人でも、1 人あたり 3,000 円の補助は変わりません!
通常補助にはない大変お得な企画です!

トピックス

林堅太郎先生のOBOG会「オール堅太郎」では、この特別補助制度を利用して、12 月 5 日(土)に 100 名規模が参加する大同窓会を開催されるそうです。他のゼミの皆様のご予定はいかがでしょうか? お問い合わせ・ご相談など適宜承ります。産社校友会事務局までお気軽にお問い合わせください。

※なお、同窓会のご参加者が、12/5(土)および 6(日)に衣笠キャンパスで開催される上記メイン企画のいずれかに必ずご参加頂くことを、特別補助実施の条件とさせていただきます。

Check

詳しくは **さんしゃ in my heart** 検索

👉 現在過去未来のさんしゃ生の心を照らす番組

さんしゃ in my heart

毎月第2・第4土曜日 23:00-23:15

FM79.7MHz 京都三条ラジオカフェにて好評放送中!
(ネットサイマル放送・Podcast 配信により全国で聴衆可能)

Good!

聴きどころ

産社創設 50 周年記念の情報発信を任された現役学生 3 人が、ラジオという媒体を思いっきり活かしながら、産社教職員やOB・OGへのインタビューを通じて、50 周年の軌跡を振りかえる珠玉の 15 分間です。

過去放送分は全て京都三条ラジオカフェのホームページから、Podcast をダウンロードすることで、国内外どこでもお聴きいただくことが可能です。

番組制作にあたる産社第 14 ゼミ (坂田ゼミ) のメンバー 前列左より、名倉有葉さん、竹内麻稀さん、石津葉月さん 後列: 坂田謙司先生



これまでのゲスト

有賀郁敏さん・産業社会学部長(2014/10/11 放送分)、横田親さん・2005 年卒業(2014/10/25 放送分)、水谷啓郎さん・2004 年卒業(2014/11/08 放送分)、本田里美さん(産業社会学部校友会副会長)・1982 年卒業(2014/11/22 放送分)、難波しのぶさん・2012 年卒業(2014/12/13 放送分)、上村真由美さん・2011 年卒業(2014/12/27 放送分)、都鳥正喜さん・1971 年卒業(2015/01/10 放送分)、植野彰さん・1983 年卒業(2015/01/24 放送分)、黒田学さん(産業社会学部教授)・1987 年卒業(2015/02/14 放送分)、桂咲之輔さん・2007 年卒業(2015/02/28 放送分)、衿野未矢さん・1986 年卒業(2015/03/14 放送分)

OK!

以下のメディアの情報も是非ご覧ください!

👉 産業社会学部創設 50 周年特設サイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/ss/ss50th/home.html/>

👉 産業社会学部創設 50 周年記念事業 facebook

<https://www.facebook.com/ss50th>

👉 産業社会学部校友会 web サイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/ss/reunion/>

校友「さんしゃ」(立命館大学産業社会学部校友会会報)

2015 年 4 月 1 日発行 第 41 号

<発行人>古谷 寛

<編集人>立命館大学産業社会学部校友会広報事業委員会

<発行所>立命館大学産業社会学部校友会

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

TEL:075-465-8185(直)

FAX:075-465-8196

E-mail:reunion@st.ritsumeai.ac.jp

WEB:http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/ss/reunion

📝 編集室より

▼今年の冬は例年に比べ寒さが厳しく、衣笠キャンパスに粉雪が舞う日が幾日もありましたが、2月初旬に行われた入試には影響しなかったのは何よりでした。

▼今年12月5日(土)6日(日)に開催する創設50周年記念事業メイン企画に関わる準備検討も本格化してきました。本誌5・6ページに掲載しているワークシヨップには私も参加しました。参加者の卒業年度には、最大で20年ほどの開きがあったのですが、さすが産社生！最初からわいわいがやがやと、頻繁に笑いも沸き起こるにぎやかなミーティングとなり、所期の目的以上の成果を得ることができました。次回4月にこのワークシヨップを開催しますが、参加者の方々は口々に「今度はもっと友人を誘って参加したい」とおっしゃっていました。事務局としては会場準備が大変ですが(笑)、とても嬉しい悲鳴です。次号(2015年7月号)では、このワークシヨップを経て決定されたメイン企画プランの概要を大々的にご紹介したいと思っています。是非ご期待ください(N)